

もりや小児科医院の基本診療方針：

☆シンプルな医療を目指して

地域の子ども達にとって安全で副作用の少ない医療を目指しております。 発熱数時間後に受診された子どもに原因もわからずに抗生剤を処方したりしません。吐いてもない子どもに吐き気止め坐薬を安易に処方しません。時には有害となりうる薬は、その薬がそれなりに必要と判断された時にしか処方しません。我が子を見守るような慎重な経過観察 (wait and see approach) を大切とし、さらに次世代の子育てにつながるための親へのアドバイスを診療の基本としております。

今現在 (2007年9月時点)、6歳から1歳まで3人の子を育てており、わたし自身がこの子たちに施したいシンプルで負担の少ない医療を近隣の子ども達にも提供してあげたい。通常、他医療機関で行われていても我が子には避けたい根拠 (EBM: Evidence-based medicine) が乏しい医療行為はもちろん他の子ども達にも提供しません。

☆院内感染・無駄な投薬をしないために

現在、休止中

ディズニーランドの人気アトラクションのように FASTPASS (予約) 制を採用しております。 予約枠は ± 時間に ± 人まで、その他の方は順番になります。 順番制も携帯電話やパソコンから番号を取ることができ、おおよその待ち時間や進行状況はネットを通じて確認できるので混雑した待合室で長時間待つ必要がなく、院内感染の危険も少ないでしょう。 診療においては、溶連菌、インフルエンザ・アデノ・RSウイルス等の迅速診断を多用し正確な診断を心がけ、さらにほとんど痛みを伴わない手技で血液採取し、重症細菌感染の有無を迅速 (約 10 分) に確認し、無駄な投薬を省くように努めております。

☆まずは親が落ち着いて、心配ならどんどん受診して

昼夜を問わず発熱したらすぐに医療機関を訪れる方が多くなりました。これって本当に正しいことでしょうか？ 20 数年の小児科医の経験と自分自身の子育て経験から、一晩で下がってしまう熱なんかはざらだし、発熱直後に診させてもらっても病気がわからないことがほとんどです。 しかしながら多くの医療機関は「咽が赤い」、「扁桃腺が腫れている」と適当な理由をこじつけて抗生剤等の薬を手渡しているのが現状です。

発熱しても元気があれば、まず保護者自身が慌てずに対処してみましょう。日頃から育児書に目を通したり、かかりつけ小児科医のアドバイスを聞いておいたり、といった情報収集も大切です。小児科医にとって、「薬なんかもらわなくてもいい。先生の <大丈夫! > って一言を聞くと安心できるので、念のために診せに来るんです。」と言われることがうれしいものです。心配ならどんどん気楽にお近くの小児科クリニックを受診し相談してください。

☆まだ風邪に抗生剤を飲ませ続けるつもりですか？

「風邪」の8~9割はウイルス性上気道炎で抗生剤は効きません。効かないだけならまだしも、下痢や肝機能障害などの副作用や、時には極めてまれですが失明することもあります。 また、抗生剤の乱用により耐性化 (抗生剤が効かない) した細菌の広がりが保育園、幼稚園、学校においても懸念されております。 耐性菌の蔓延は地域社会の共有すべきリスクと認識し、さらに我が子を守るためには「風邪」で抗生剤が処方された時には、「この抗生剤は必要ですか？」ときちんと医師に聞いて治療法を確かめることをおすすめします。

(この内容は情報誌：ままと〜ん♪No.8.2007年11月15日発行に掲載されたものを一部改変しております。)



お薬に関するワンポイント・アドバイス

気管支喘息のお薬

(風邪の咳止めではありません)

- ・オノン、ブランルカスト
- ・シングレア、キプレス
- ・テオドール、テオロング
- ・フルタイド、キュバルム、アドエア吸入

適正に使用

ステロイドホルモン剤

(魔法の薬です。長期に連用すると満月様顔貌、肥満、低身長を来たします)

- ・デカドロン
- ・セレスタミン
- ・プレドニン

お薬手帳で抗生剤を確認してみましょう！

セフゾン、パナン、メイアクト、フロモックス、トミロン、オラスポア、オゼックス、ファロム、オラベナム、バクシダール、ホスミシン、ジシロマック、エリスロマイシン、クラリス、クラリシッド、リカマイシン、ミノマイシン、クラバモックス、ワイドシリン、パセトシン、サワシリン等が一般によく処方される抗生剤です。

※先日、当院を受診された1歳4ヶ月のお子さんは、発熱、咳、鼻水といわゆる風邪で抗生剤をひとつのクリニックで断続的に81日間も処方されておりました。

〒302-0127

茨城県守谷市松ヶ丘4-2-5

もりや小児科医院

院長：金子英哲

TEL：0297-20-6737